調布市
CHOFU

東京２０２０大会

―調布市報告書　概要版―

この冊子には、音声コード「UniVoice」が各ページに印刷されています。スマートフォンの専用アプリなどで読み取ると、音声で内容が確認できます。音声コードの位置を把握できるよう、音声コードの横に半円の切り欠きを施しています。

はじめに

［報告書の発行に当たって］

世界的な新型コロナウイルス感染拡大の影響により、史上初の1年延期となった東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会（以下「東京2020大会」という。）は、多くの会場において無観客で開催されました。国内では、政府による緊急事態宣言が発出される中、直前まで大会開催の可否が問われることとなりましたが、困難な状況下でも最高のパフォーマンスを発揮したアスリートや、多くの関係者のご尽力により、成功裏に終了のときを迎えることができました。パラリンピックのバドミントン女子ダブルス（車いす）において、堂々の金メダルを獲得した、元調布市役所職員の山崎悠麻選手をはじめとした調布市応援アスリートを含め、すべての競技者が自らの目標に向かって果敢に挑戦する姿は、全市民、とりわけ次代を担う子どもたちに大きな感動、そして夢と希望を与えてくれたものと確信しています。

市内では、東京スタジアム、武蔵野の森総合スポーツプラザ、都立武蔵野の森公園において6競技が開催され、無観客ながらも、世界最高峰のアスリートの熱戦が調布から世界へ向けて配信されました。2019年に開催されたラグビーワールドカップ日本大会に引き続き、世界最大級のスポーツイベントが市内で開催されたことは調布市の歴史に未来永劫語り継がれる慶事であります。また、パラリンピックの開催は、障害の有無にかかわらず、だれもが住み慣れたまちで安心して暮らし続けられる共生社会の一層の充実に向け、ユニバーサルデザインの理念に基づくまちづくりを進めてきた調布市にとって、非常に意義深いことだったと捉えております。

市では、2016年7月に「2020年に向けた調布市の取組方針」を策定し、東京2020大会に向けた市の取組の方向性を定めました。そして、その具現化を図るため、「調布市アクション＆レガシープラン」を策定し、市内外の関係者とともに、「オール調布」体制で取組を進めて参りました。

新型コロナウイルスに対応しなければならないという大変困難な状況下にあって、多くの事業が変更・縮小・中止を余儀なくされたことは残念だったものの、「オール調布」で進めてきた様々な取組を大会のレガシーとして継承・発展させ、次代のまちづくりにつなげて参ります。

最後になりますが、大会開催に向けた市の取組にご協力いただいたすべての関係機関・団体、また個人の皆さまに、衷心より感謝申し上げます。

調布市長

長友貴樹

目次

はじめに

［1章］大会概要・聖火リレー・大会期間中の取組

03　東京2020大会概要

05　聖火リレー

07　大会期間中の市の取組

［2章］レガシー創出に向けた調布市の取組

09　市の取組 総論

11　アクション&レガシープラン 取組①【スポーツ・健康づくり】

13　アクション&レガシープラン 取組②【産業・観光振興】

15　アクション&レガシープラン 取組③【まちづくり】

17　アクション&レガシープラン 取組④【文化・国際交流・平和】

19　アクション&レガシープラン 取組⑤【教育・青少年の健全育成】

［3章］総括

21　総括（レガシー）

東京２０２０大会概要

新型コロナウイルス感染拡大の中、史上初の1年延期となった東京２０２０大会は、多くの会場で無観客開催となりましたが、調布市応援アスリートの山崎悠麻選手がパラリンピックのバドミントン女子ダブルスで金メダル、女子シングルスで銅メダルを獲得したことをはじめ、日本選手団のメダル獲得数が過去最多となり、大会を盛り上げました。

第３２回オリンピック競技大会

開催期間	2021年7月23日（金）～8月8日（日）
競技／種目数	33競技／339種目
調布市内開催競技	バドミントン・自転車競技（ロードレース）・サッカー・近代五種・7人制ラグビー

４年に1度開催される、世界的なスポーツの祭典。日本での開催は、東京1964年、札幌1972年、長野1998年。夏季オリンピックは、57年ぶり2度目。「復興五輪」として、東日本大震災（2011年）から10年の節目の年に開催されました。

東京２０２０パラリンピック競技大会

開催期間	2021年8月24日（火）～9月5日（日）
競技／種目数	22競技／539種目
調布市内開催競技	車いすバスケットボール

障害のあるトップアスリートが出場するスポーツの祭典。4年に1度、オリンピック競技大会の終了後に同じ場所で開催されています。東京は、同一都市として初めて2回目の夏季パラリンピック大会を開催した都市です。

大会エンブレム

TOKYO 2020

TOKYO 2020 PARALYMPIC GAMES

HOST CITY

組市松紋（くみいちまつもん）

市松模様を使い日本の伝統色である藍色で、粋な日本らしさを描きました。形の異なる3種類の四角形を組み合わせ、「多様性と調和」のメッセージが込められています。

大会マスコット

ミライトワ

素晴らしい「未来」を「永遠（トワ）」に、という願いを込めて名付けられました。

ソメイティ

桜を代表する「ソメイヨシノ」と、非常に力強いという意味の「so mighty」から名付けられました。

調布市内競技会場

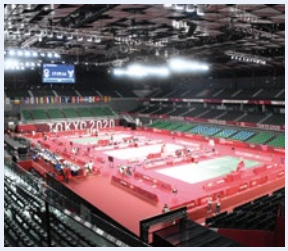
東京スタジアム

サッカーをはじめ、多彩なイベントに使用される多目的スタジアム。ラグビーワールドカップ2019では開会式、開幕戦を含む8試合が開催されました。

開催競技スケジュール

サッカー	7月21日（水）、7月22日（木）
7人制ラグビー	7月26日（月）、7月31日（土）
近代五種	8月6日（金）、8月7日（土）

武蔵野の森総合スポーツプラザ



多摩地域のスポーツ拠点として。2017年11月に開業した総合スポーツ施設。2018･2019年には車いすバスケットボールの国際大会が開催されました。

開催競技スケジュール

バドミントン	7月24日（土）～8月2日（月）
近代五種（フェンシング）	8月5日（木）
車いすバスケットボール	8月25日（水）～8月29日（日）

都立武蔵野の森公園

調布市・府中市・三鷹市に跨る都立公園。周囲には武蔵野の森が広がり、森の緑を背景として美しい景観が楽しめます。

開催競技スケジュール

自転車競技（ロードレース）

7月24日（土）、7月25日（日）

大会結果

東京2020大会では、オリンピックでは、過去最多と並ぶ205の国・地域から約11,000人の選手が参加し、パラリンピックでは、リオ大会を上回る162の国・地域から約4,400人が参加しました。選手の活躍も目覚ましく、オリンピックでは26個、パラリンピックでは157個の世界新記録が誕生しました。また、多様性あふれる大会となり、性的マイノリティの選手も多く出場し活躍しました。日本人選手も活躍し、メダル数は、オリンピックでは過去最多の計58個（金27・銀14・銅17）、パラリンピックで過去2番目の計51個（金13・銀15・銅23）という成績を残しました。調布市応援アスリートからは、相馬勇紀選手がサッカー男子でベスト4に進出、元調布市職員の山崎悠麻選手は、パラリンピックのバドミントン女子ダブルス（里見紗李奈ペア）で金メダル、女子シングルスで銅メダルを獲得する活躍を見せました。コロナ禍により、多くの会場で無観客開催となりましたが、試合の様子は地上波をはじめ、インターネットでもライブ配信され、世界でのインターネット視聴時間は過去最大となる大会でした。

また、この大会は、コロナによって分断された世界をスポーツの力で1つにし、世界中の人々に勇気と希望を与えました。

左：里見選手・右：山崎選手　©PHOTO KISHIMOTO

市内関係競技の結果

市内では、3つの競技会場において、6競技が開催されました。開会式に先立って東京スタジアムで行われたサッカー男子の予選では、日本が南アフリカに1対0で勝利しました。同会場で行われた7人制ラグビーでは、男子がフィジー、女子がニュージーランドの金メダルで幕を閉じました。バドミントンでは、調布市応援アスリートの桃田賢斗選手が出場しましたが、惜しくも2回戦で敗れました。近代五種では、史上初めて同一会場で全種目が実施され、日本人選手3人が出場しました。自転車ロードレースは、男子130人、女子67人の選手が参加。都立武蔵野の森公園をスタートし、都内の多摩地域8市を通過後、静岡県駿東郡小山町にある富士スピードウェイでゴールとなりました。武蔵野の森総合スポーツプラザで予選が開催された車いすバスケットボールでは、男子代表が初の決勝に進出し、前回リオデジャネイロパラリンピックで金メダルを獲得したアメリカに60対64の僅差で惜しくも敗れました。1976年のトロント大会から出場し、12回目の挑戦で初めてのメダル獲得となり、新たな歴史を刻みました。

オリンピック聖火リレー

東京2020オリンピック聖火リレーのコンセプトは、「Hope Lights Our Way／希望の道を、つなごう。」です。2021年3月25日に福島県をスタートしたオリンピック聖火は、121日間をかけて日本全国を巡り、1万500人以上の人々によってつながれた後、開会式当日に、オリンピックスタジアムの聖火台に灯されました。

当初計画～延期・公道走行中止

2020年7月16日に市内を通過する予定でしたが、大会の延期により、2021年7月15日に日程が変更となりました。市内ルートは、9時に深大寺（公式セレモニーとして、出発式を実施）を出発し、武蔵境通りや甲州街道を通過しながら、9時53分に調布駅前広場を到着地点とするルート（約4km）でしたが、感染症の影響により、公道での走行が中止となりました。

予定されていたオリンピック聖火リレー市内ルート

点火セレモニー

Photo by Tokyo 2020

公道での走行に代えて、2021年7月16日にセレブレーション会場となる武蔵野陸上競技場にて点火セレモニーが関係者のみで開催されました。市長挨拶、トーチ点火、聖火ランナーによるトーチキスなどが行われました。

主なランナー紹介

紙屋 十磨（とおま）さん

坪木 優果（ゆうか）さん

松田 天空（あんく）さん

調布リトルリーグ・リトルシニアの皆さん
（グループランナー）

パラリンピック聖火リレー

東京2020パラリンピック聖火リレーは「Share Your Light ／あなたは、きっと、誰かの光だ。」のコンセプトのもと、2021年8月12日から24日まで開催されました。原則として「はじめて出会う3人」がチームになってリレーが行われ、リレーで用いられた聖火は、47都道府県の炎とパラリンピック発祥の地・イギリスからの炎が一つとなり、誕生したものです。

予定されていたパラリンピック聖火リレー市内ルート

当初計画～延期・公道走行中止

2020年8月24日に市内を通過する予定でしたが、大会の延期により、2021年8月23日に日程が変更となりました。市内ルートは、17時38分に西調布駅北口ロータリーを出発し、旧甲州街道やスタジアム通りを通過しながら、18時04分に東京スタジアム前歩道橋上を到着地点とするルート（約1.5km）でしたが、感染症の影響により、公道での走行が中止となりました。

採火・聖火ビジット

2021年8月20日に深大寺の護摩祈願の火から「調布市の火」を採火しました。その後、都内全62市区町村の火が一つになって生まれた「東京都の火」は、福祉施設や文化会館たづくりなど市内18か所で、聖火ビジットとして展示しました。

主なランナー紹介

隈元 凌（りょう）さん

FC東京あおぞらサッカースクール in 調布の皆さん（グループランナー）

点火セレモニー・都内到着式

公道での走行に代えて、8月23日にセレブレーション会場となる都立砧公園にて点火セレモニーが関係者のみで開催されました。市長挨拶、トーチ点火、聖火ランナーによるトーチキスなどが行われました。また、8月24日に都立代々木公園にて開催された都内到着式に、調布市とFC東京の連携事業である「FC東京あおぞらサッカースクール in 調布」が参加しました。

点火セレモニー

都内到着式

大会期間中の市の取組

聖火リレーの市内公道走行、パブリックビューイングイベントなど、多くの大会関連事業については、感染症の影響により、変更・縮小・中止を余儀なくされましたが、オンラインへの転換など柔軟な対応を図り、大会の盛り上げへ向けた取組を実施しました。また、大会に出場した調布市応援アスリートに向け、多くの市民の皆さんに参加をいただきながら、市をあげて応援しました。

オンライントークイベント

東京2020大会期間中において、パブリックビューイングや競技体験を中心としたコミュニティライブサイトを調布駅前広場などで開催することを計画してきましたが、感染症による影響等に鑑み、2021年6月に中止を決定しました。代替として、地元企業やプロのスポーツチームなど多様な主体と連携してオンライントークイベントを開催し、5つのテーマ（サッカー、バドミントン、ホストタウン、ラグビー、パラリンピック）について、YouTube チャンネル「調布市動画ライブラリー」で配信しました。

オンライントークイベントの概要

サッカー［ 2021年7月22日～ ］

【出演】● 石川直宏、梶山陽平、永井謙佑ほか

【内容】●オリンピック出場経験談
●日本代表戦の見どころ、注目選手
●日本代表応援花火打ち上げなど

バドミントン［ 2021年7月24日～］

【出演】● 川前直樹、佐藤翔治
● NTT 東日本バドミントン部現役選手

【内容】● オリンピック出場経験談
● バドミントンの魅力
● 大会の見どころ
● 桃田賢斗選手への応援企画など

ホストタウン［ 2021年7月25日～］

【出演】● サウジアラビア王国大使館文化部、岩手県大槌町、愛媛県新居浜市など

【内容】● 調布市、大槌町、新居浜市によるサウジアラビアとの交流について
● サウジアラビアの文化紹介など

ラグビー［ 2021年7月25日～］

【出演】● 大野均、真壁伸弥
● 現役ラグビー選手

【内容】● 調布とラグビーについて
● 7人制ラグビーの魅力、大会の見どころなど

パラリンピック［ 2021年8月21日～］

【出演】● 上村知佳、稲村亜美、三宅克己、保坂俊彦ほか

【内容】● 稲村亜美さんによる車いすバスケットボールの体験
● パラリンピック出場経験談
● パラリンピック出場選手への応援企画
● サンドアート制作のドキュメンタリー
● 調布よさこいによるパフォーマンスなど

稲村亜美さんによる
車いすバスケットボールの体験

シティドレッシング

東京2020大会の機運醸成を目的として、東京都及び東京2020組織委員会は観客利用想定駅（飛田給駅・西調布駅・調布駅）から競技会場に至る道のりや競技会場周辺、商店街などに大会ルックを用いた街路灯バナーフラッグ等で装飾を行いました。また、市独自の取組として、調布駅前広場、仙川駅周辺などに街路灯バナーフラッグの設置や、市庁舎エレベーター扉などに装飾を施しました。

飛田給駅のシティドレッシングの様子

調布市応援アスリート

市は、市にゆかりのある現役アスリートを「調布市応援アスリート」として認定し、市をあげて応援しています。これまでに7人のアスリートを認定し、東京2020大会には、山崎悠麻選手、桃田賢斗選手、有安諒平選手、相馬勇紀選手の4人が出場しました。出場選手に向けて子どもたちをはじめとした市民の皆さんからの応援メッセージ送付や、市内各駅に設置した看板などで試合日程を周知する取組などを行い、市をあげて応援しました。

新型コロナウイルス感染症の影響

感染症の影響に伴い、東京2020大会は史上初の延期となり、多くの会場で無観客開催となりました。市内においても、聖火リレーの公道走行や、市主催のコミュニティライブサイトなど、多くの事業が計画変更または中止を余儀なくされました。

変更・中止となった主な取組

- 聖火リレー公道走行→点火セレモニーへ変更
- コミュニティライブサイト（市主催）→オンラインイベントへ変更
- ライブサイト（都主催）→中止
- 調布市立小・中学校における学校連携観戦プログラム→中止
- 調布市民観戦事業→中止
- 調布市おもてなしボランティアによる活動→中止

市の取組 総論

ラグビーワールドカップ 2019™ 日本大会、東京2020大会を契機として、多様な主体と連携・協働し、市のまちづくりへの多面的な効果と有形・無形のレガシーを創出するため、「オール調布」で多岐にわたる取組を展開しました。また、パラリンピックレガシー創出のため、「パラハートちょうふ」をキャッチフレーズとして、様々な取組を進めてきました。

取組の方向性

調布市基本計画及び調布市まち・ひと・しごと創生総合戦略に示した東京2020大会等に関する方向性を踏まえ、調布市における取組の基本的な考え方や3つの取組の視点から、「スポーツ・健康づくり」、「産業・観光振興」、「まちづくり」、「文化・国際交流・平和」、「教育・青少年の健全育成」の5つのテーマごとに、目指す方向や主な取組内容を示した「調布市アクション&レガシープラン」を策定しました。本プランに基づき、東京都や東京2020組織委員会、近隣市、関係団体など多様な主体と連携・協働した様々な角度からのアクションを推進することで、大会を契機とした有形・無形レガシーを創出し、調布のまちの更なる発展と魅力の向上、多摩地域全体の振興に向け、多岐にわたる取組を展開しました。新型コロナウイルス感染症の影響により、中止又は変更を余儀なくされた事業もありましたが、適宜、見直しを図りながら柔軟に対応し、各テーマで目指す方向を踏まえた取組を推進しました。

2020年に向けた調布市の取組方針（平成28（2016）年7月策定）

3つの視点

取組の視点①	取組の視点②	取組の視点③
円滑な開催支援	大会の機運醸成・各分野の振興	レガシー創出 調布のまちの発展 多摩地域全体の振興

3つの視点を踏まえた 5つのテーマによる取組

- スポーツ・健康づくり
- 産業・観光振興
- まちづくり
- 文化・国際交流・平和
- 教育・青少年の健全育成

調布市アクション&レガシープラン

オール調布での取組

行政と市議会、市内関係機関・関係団体が一丸となり、「オール調布」の視点に立った取組を進められるよう、「調布市2019-2020プロジェクト全体会議」を設置し、大会関連情報等の共有を図ってきました。会議は、行政、議会、スポーツ、文化・国際交流、産業・観光、交通、安全・安心、メディア、地域、社会福祉、教育など、各分野の関係団体等で構成されました。

全体会議の様子

多様な主体との連携

東京都や東京2020組織委員会をはじめ、他自治体、地域のプロスポーツチームや競技団体など、多様な主体と連携した取組を進めパートナーシップを推進・発展させました。

主な連携事業

- 東京スタジアム近隣市の府中市・三鷹市と連携したラグビーフェスティバルの開催
- 多摩26市と連携した東京都市町村ボッチャ大会の開催
- オリンピック自転車ロードレース通過8市と連携した取組の実施
- 相互協力協定を締結した日本車いすバスケットボール連盟と連携した取組
- 連携協定を締結した地域のラグビーチームと連携した取組　など

ホストタウン

※ホストタウンは国の事業です

サウジアラビア応援 DAY の様子

2002 FIFA ワールドカップの際にサウジアラビア王国代表チームの合宿地となったことを契機として、市民有志による活動を土台に、様々な交流を継続し、2016年にホストタウンとして登録されました。コロナ禍により、東京2020大会に出場する選手との直接交流はできませんでしたが、日本郵便（株）と連携したホストタウンフレーム切手の作成や、同じサウジアラビアのホストタウンである愛媛県新居浜市、岩手県大槌町と連携したオンラインによる取組を行いました。

パラハートちょうふ ～つなげよう、ひろげよう、共に生きるまち

市内でパラリンピック競技大会が開催されることなどを踏まえ、障害理解の促進に関する取組をはじめ、様々な取組を一体的に関連付けて展開し、共生社会の重要性を発信していくことを目的に、2020年1月に統一的なキャッチフレーズを定め、活用を図ってきました。キャッチフレーズには、市内外の多くの方が様々な障害に対する理解を深め、寄り添う心を持って、全ての人が手を取り合って暮らせる共生社会の実現を目指し、多様な主体との連携・協働により取り組んでいくことの意を表しています。

このキャッチフレーズを広く活用していくため、ロゴとアートデザインを制作し、市や市内団体の各種事業のチラシ・ポスターなどに掲載しています。アートデザインは東京2020大会に向けた市のイベントにおいて、市内の福祉作業ナンバーと来場した子どもたちが一緒に楽しみながら制作したアート作品のデザインです。

A＆L 取組 1

【スポーツ・健康づくり】

調布市体育協会等の関係団体や各競技団体、FC東京等と連携・協力しながら、障害の有無にかかわらずだれもがスポーツに親しめる機会の創出を図るとともに、障害者スポーツの振興に取り組みました。また、市民の運動機会の習慣化による健康増進に向けた環境づくりを推進しました。

障害者スポーツの振興

「調布市障害者スポーツの振興における協議体」

東京都との連携により、スポーツ分野と福祉分野の関係団体による協議体を設置し、各団体の現状や課題、または障害者スポーツ振興のためにできること等を持ちより、連携の可能性を見出し、課題解決に向けた話し合いや事業を行っています。

「障害者スポーツ体験会」

障害者スポーツの難しさや面白さを体験し、より身近に感じることを目的として実施しています。その中で日本車いすバスケットボール連盟や日本ブラインドサッカー協会、東京都障害者スポーツ協会等との連携体制の強化を図っています。

「東京都市町村ボッチャ大会」

パラリンピックを契機として、2019年度から多摩地域26市３町が連携してボッチャ大会を開催しています。市では調和SHC倶楽部や調布市スポーツ推進委員会と連携したボッチャ交流会を予選会と位置付け、障害の有無にかかわらず多くの人がボッチャを楽しみました。

障害者スポーツ体験会

障害のある人もない人もみんなで楽しもう交流会

東京都市町村ボッチャ大会

障害者余暇活動支援事業（ほりでーぷらん）

主に、重度知的障害のある方を対象とし、余暇活動の充実、運動不足の解消、ご家族の負担軽減を図るものです。イベント開催時には、ボランティアや地域住民、関係機関の協力を得ることで、障害理解の促進も図ります。

FC東京あおぞらサッカースクール・交流会

FC東京と連携し、主に知的・発達障害のある方を対象にサッカースクールを開催しています。また、年に数回の他チームとの交流会を実施し、サッカーを通じて仲間との交流を図っています。

調布市民体育祭・調布市民スポーツまつり・調布市民駅伝競走大会

より多くの市民が生涯を通してスポーツに親しむことができるよう3大スポーツイベントとして実施し、多くの市民へのスポーツ振興に寄与しました。

市民スポーツまつり

ラグビーに関する取組

「タグラグビーの振興」

市内の小学校4年生から6年生までのチームがタグラグビーを通じて交流を深めることを目的とした「小学生タグラグビー大会」の開催等、ラグビー競技を知る・楽しむ機会をつくりました。

「府中・調布・三鷹3市連携事業」

3市及び東芝ブレイブルーパス東京、東京サントリーサンゴリアスと連携したラグビーフェスティバルの開催や7人制ラグビーのルールや魅力を発信する「ラガマルくんのラグビーセブンズガイドブック」を作成しました。

「東芝ブレイブルーパス東京、東京サントリーサンゴリアス、府中市、調布市、三鷹市連携協定」

5者の関係性をより一層強固なものとし、ラグビーを通じてさらなる発展と充実に寄与することを目的に締結しました。市では両チームと、連携事業の実施に向けた具体的な検討を進めています。

小学生タグラグビー大会

ラグビーフェスティバル

連携協定締結式

FC東京・NTT東日本バドミントン部との連携

「FC東京とのパートナーシップ」

市とFC東京は、スポーツの分野にとどまらず、青少年育成、福祉、地域活性化等様々な分野で連携したまちづくりを行っています。その中で多くの連携事業の実施やFC東京を応援することによる市内のスポーツ機運の向上等、市のスポーツ振興に取り組んでいます。

FC東京オンライントークイベント

「NTT東日本バドミントン部との連携」

市内在住・在学の小学生を対象に、選手による指導や交流を行う「NTT東日本バドミントン部地域感謝祭」を開催したほか、東京2020大会に向けたオンライントークイベント等、市のスポーツ振興事業に取り組んでいます。

NTT東日本バドミントン部地域感謝祭

創出するレガシー

- 子ども、高齢者、障害者などのだれもがスポーツに親しみ、楽しめる環境や機会の確保
- パラリンピックを契機とした障害理解の促進
- 多摩地域における国際的なスポーツ拠点の形成
- スポーツ等を通じた主体的な参加意識の向上と健康増進

A&L 取組 2

【産業・観光振興】

東京2020大会開催の機会を捉えて、商工会、観光協会及び市内事業者など、多様な主体と連携し、調布市の魅力発信に取り組みました。また、主要な地域資源である花火を活用することにより、開催に向けた機運醸成やにぎわいの創出に努めました。

映画のまち調布花火

2019年度に開催した「映画のまち調布花火2019（第37回調布花火）」では、ラグビーワールドカップ2019や東京2020大会の応援ソングに合わせた花火を打上げ、機運醸成につなげました。2020年度及び2021年度は、東京2020大会の出場選手を紹介するオンライントークイベントを実施し、競技の魅力や見どころを伝えるとともにフィナーレでは、多摩川河川敷で日本代表応援花火を打上げました。

2017年から続けてきたサマーフェスティバルの花火につきましては、来年度以降についても東京2020大会のレガシーとして継承していきます。

日本代表応援花火

駅前広場を活用したにぎわい創出に関する取組

市の交通の玄関口である調布駅前広場において、「ゲゲゲ忌」、調布観光フェスティバル及び調布和めぐりなどのイベントを実施し、地域資源である深大寺などの事業と連携することにより、調布駅周辺のにぎわいを市内に波及させる取組を推進しました。

また、調布市観光案内所「ぬくもりステーション」で観光情報をPRし、市内の回遊性向上につなげました。

調布市観光案内所「ぬくもりステーション」

シネマコンプレックス、映画・映像関連企業と連携した「映画のまち調布」の推進

市内の映画・映像関連企業や商店会と連携し、イオンシネマ シアタス調布の当日座席指定券を加盟店で提示すると、各店舗独自のサービスを受けられる「半券サービス」事業を実施したほか、城西国際大学の学生が制作した、商店会の PR 動画を、イオンシネマ シアタス調布のプレアドで上映しました。

そのほか、「映画のまち調布」応援キャラクター・ガチョラの活用や、市民団体との連携による親子向けの映画上映会の実施など、「映画のまち調布」ならではの取組により、にぎわいの創出につなげました。

映画半券サービス

ロケツーリズムの推進

市を主な舞台で撮影された映画「花束みたいな恋をした」の上映を契機として、東京観光財団の観光まちづくり支援事業助成金や、観光庁の「誘客多角化等のための魅力的な滞在コンテンツ造成」実証事業の活用により、新たなロケツーリズムコンテンツを作成・発信し、来訪者が市内を周遊できる仕組みを構築することで、「映画のまち調布」のPRや地域経済の活性化につなげる取組を実施しました。

ロケ地マップ

「水木マンガの生まれた街 調布」の推進

調布市名誉市民・水木しげるさんの御功績を称え、2020年度で5回目を迎えた「ゲゲゲ忌」を中心として、「水木マンガの生まれた街 調布」の事業を推進しました。また、市内を回遊する仕組みづくりを行い、調布のまちの魅力向上や水木しげるさんと調布市のかかわりを知ってもらう機会につなげたほか、調布駅前広場、鬼太郎ひろば及びイオンシネマ シアタス調布におけるイベント実施により、にぎわいを創出しました。

ゲゲゲ忌2020

© 水木プロ　© 水木プロ・東映アニメーション

Wi-Fi 環境整備の推進、多言語版観光マップの作成、多言語による観光情報の提供等のインバウンド対策

多言語版観光マップの作成や深大寺参道にあるフリーWi-Fiのセキュリティ強化並びに市内飲食店等に対するフリーWi-Fi整備の推進など、調布市観光協会と連携したインバウンド対策に取り組みました。

また、多言語観光情報サイト「Guidoor」（10か国語）において、市内の観光情報を充実させるとともに、スマートフォン型の2次元コード付き広報物を発行し、来訪者が調布の情報を取得できる環境整備を図りました。

Guidoor

調布市の特徴ある土産物の紹介

来訪者に調布の魅力を PR し、地域経済を活性化するために、調布市商工会と連携して「調布のおみやげ」を選定し、それを紹介するホームページや日本語版・英語版のチラシを作成しました。そのほか、調布のおみやげ LINE スタンプラリーを実施し、調布のおみやげの魅力発信につなげました。

調布のおみやげ

創出するレガシー

- 地域資源を活用した魅力発信及び調布市の知名度の向上（東京ブランドの一角を形成）
- 多言語の観光情報の提供及び Wi-Fi 整備の推進等によるインバウンド対応の環境整備
- 東京2020大会の開催地であったことを後世に伝える取組による、市民の地域への誇り（シビックプライド）の醸成

A&L 取組 3

【まちづくり】

京王線地下化に連動した調布のまちの骨格づくりを進め、地域の特性を生かした環境負荷の少ない持続可能で、安全・安心、魅力的なまちづくりを推進しました。また、ユニバーサルデザインの考え方に基づく福祉のまちづくりを推進するとともに、市民や来訪者の回遊性を高めるため、外国人を含む利用者の視点に立った分かりやすく親しみやすい公共サイン整備、受動喫煙防止など、東京２０２０大会開催会場である地元市としての環境整備に向けた取組を進めました。

安全で環境にやさしいまちづくり

飛田給駅踏切の拡幅による安全対策や、暑さ対策としての道路の遮熱性舗装やミストシャワーの設置など、バリアフリー化を含めた各種ハード整備に加え、商工会と連携してユニバーサルデザインのまちづくりを推進する「地域共生推進ふれあい商店等補助事業」や、駅前のクリーン作戦など、各種ソフト事業を実施しました。

公共サインに関しては、ラグビーワールドカップ2019や東京2020大会を見据え、スポーツ祭東京2013の開催時に飛田給駅から競技会場まで設置した誘導サイン等の整備・更新をするとともに、会場周辺に歩行者用観光案内標識を設置しました。

地域共生推進ふれあい商店等補助事業

市内の商店がバリアフリーを実施するために必要な費用の一部を補助することにより、市内のバリアフリー化を促進しました。事業を通じて、障害理解を促進し、だれもが障害者等に対し合理的な配慮を提供する意識の向上を図りました。

持続可能なまちづくり

市は、環境負荷の少ない持続可能なまちづくりを目指し、プラスチックごみの減量や海洋流出防止に繋がる独自の「CHOFU（調布）プラスチック・スマートアクション」を実施しました。また、市と市議会は、脱炭素社会の実現に向けて「2050年までに二酸化炭素排出実質ゼロ」にする「ゼロカーボンシティ」を目指すことを宣言しました。

Plastics Smart CHOFU

CHOFU プラスチック・スマートアクションロゴ

ゼロカーボンシティ宣言

飛田給駅・西調布駅・調布駅周辺花いっぱい事業

ラグビーワールドカップ2019、東京2020大会のおもてなしの一環として、飛田給駅、西調布駅、調布駅周辺で花いっぱいサポーターを中心に、花壇の植え付けや花のコンテナ等での花装飾を実施しました。

受動喫煙防止

受動喫煙による健康への悪影響から市民等を守り、子どもたちをはじめだれもが健康に暮らせるまち調布の実現に寄与することを目的として、2019年7月に調布市受動喫煙防止条例を施行しました。東京2020大会後においても、引き続き調布を訪れる方々の健康被害を防ぐため、市民や医師会等と連携し、受動喫煙防止に向けた取組を推進しています。

調布駅前・飛田給駅前クリーン作戦

調布駅前・飛田給駅前周辺を、市民・事業所の方々と清掃活動を行うことで、地域の交流や活性化を図り、今後もよりきれいな親しまれる場所とすることを目指し、クリーン作戦を実施しています。このクリーン作戦には、近隣の事業者・自治会・商店街など10団体を超える方々に加え、調布市おもてなしボランティアの方々にも参加していただきました。

自転車推奨ルート

東京2020大会に向け、東京都の自転車推奨ルートの検討に合わせて、東京都と連携し、東京スタジアム周辺道路の自転車走行空間の整備を進めました。

シェアサイクル

市民や来訪者への利便性・回遊性の向上を図るため、民間事業者と連携し、市内9駅周辺にある駐輪場などを活用して電動アシスト自転車のシェアサイクルの取組を推進しています。

創出するレガシー

- 地域の特性を生かした環境負荷の少ない持続可能で魅力的な都市空間の形成
- 外国人を含む利用者の視点に立った、
  分かりやすく親しみやすい公共サイン整備による回遊性の向上
- ユニバーサルデザインの考えに基づく福祉のまちづくりの推進

A&L 取組 4

【文化・国際交流・平和】

だれもが、それぞれに応じた活動を通じて、豊かな芸術文化を育むまちづくりに取り組むまちとして、東京2020大会開催を契機に、文化プログラムと連動した取組を推進するとともに、地域ゆかりの文化の発信、国際交流、平和施策の取組を推進しました。

多様な主体と連携した芸術文化の振興

芸術文化活動を通じた共生社会の充実に向けた取組

2017年度から調布市福祉作業所等連絡会との共催事業として、各作業所等で活動されている方々のアート作品を展示する「パラアート展」を開催しています。2020年には、調布市文化・コミュニティ振興財団と連携し、共生社会の推進をテーマとした「調布・巡る・アートプロジェクト」を開催し、調布市グリーンホール・文化会館たづくり・せんがわ劇場において、現代アート作品の展示や市内福祉作業所等と連携したオンラインワークショップを実施しました。あわせて、印刷物への音声コード付記や作品に触れていただき解説を行う鑑賞サポートなど、視覚障害者の方にも楽しんでいただけるよう、美術鑑賞へのアクセシビリティを高める取組を行いました。

パラアート展

パラアート展作品制作の様子

調布・巡る・アートプロジェクト

サマーフェスティバルでの五輪音頭の様子

「東京五輪音頭 -2020-」の普及啓発

「東京五輪音頭 -2020-」の市内各地での展開に向けて、調布市文化協会会員及びNPO法人ちょうふこどもネット職員が講師となり、練習会を開催し、サマーフェスティバルでは参加者が輪になって踊りを楽しみました。また、市内の名所の映像とともに「東京五輪音頭 -2020- 調布バージョン」のミュージックビデオを作成しました。

調布市文化・コミュニティ振興財団との連携

文化会館たづくりの床や壁面を利用し、市内開催競技やアスリートをアートで表現する「たづくりアスリートワンダーウォール！」のほか、地域の産業に触れながら、廃材・端材で創作活動を行う「クリエイティブリユースでアート！」、深大寺に縁の深い能楽をテーマに、舞台照明や字幕解説など新たな試みを加えた舞台公演や体験型の学習講座など様々な切り口から取り組んだ「調布能楽 odyssey」など、地域の特色を生かしながら多彩な事業に取り組んできました。

たづくりアスリートワンダーウォール！

クリエイティブリユースでアート！

調布能楽 odyssey

国際交流・国際理解促進の取組

調布市国際交流協会では、日本語教室等の外国人支援事業や、国際交流や国際理解につながる事業に取り組み、多文化共生の地域づくりを推進しています。東京2020大会に向けた取組として、外国人会員と交流しながら英語を学ぶ「調布でおもてなし～夏休み・小学生編、中高生編」を実施し、市内の競技会場までの道のりを実際に歩いて道案内を学ぶなど、実践的な内容を盛り込んだ事業を行ったほか、ホストタウンであるサウジアラビア王国応援企画として、サウジアラビア国歌を歌う様子を収録しました。

また、多言語対応だけでなく、「やさしい日本語」の普及啓発を行っています。

外国人支援事業

国際交流事業

小・中学生おもてなしボランティア

平和祈念事業

「調布市非核平和都市宣言」、「調布市国際交流平和都市宣言」の理念に基づき、様々な平和祈念事業に取り組んでいます。

市民の代表“ピースメッセンジャー”として戦争・平和に関する学びを深めた中学生が、様々なイベントで学んだことや平和への想いを広く発信しているほか、市内の子どもたちから“平和なまち”をテーマに絵を募集する絵画コンテストや被爆資料等を展示する「原爆展」の開催、戦争体験映像記録の制作、平和祈念の取組をまとめた情報誌「ピース・レターちょうふ」の発行など、幅広い年齢層の市民に平和について考える機会を提供しています。

ちょうふピースメッセンジャー

ピースメッセンジャーの活動

調布っ子“平和なまち”絵画コンテスト

創出するレガシー

- だれもが芸術文化に親しみ楽しめる環境づくりの推進
- 幅広い主体とのつながりや地域の文化資源を生かしたイベントの開催
- 日本の伝統や文化、参加国・地域の文化や言語、共生や平和の理念などに関する理解や生涯学習の推進

A&L 取組 5

【教育・青少年の健全育成】

市立小・中学校で推進したオリンピック・パラリンピック教育による体験や交流活動を重視した学び、児童館による普及啓発事業等を通じて、オリンピック・パラリンピックの歴史や意義、国際理解を深めるとともに、児童・生徒の運動やスポーツへの関心や親しみを一層高め、青少年への健全な育成を図りました。

調布市におけるオリンピック・パラリンピック教育の推進

調布市立小・中学校の全校が「オリンピック・パラリンピック教育推進校」として指定され、オリンピック・パラリンピック教育を推進しました。また、各校の取組を通して、運動・スポーツに親しむ児童・生徒を育成し、基礎体力の向上を図りました。2016年度以降は、4つのテーマを基本に、4つのアクションを結び付けた多彩な教育活動を展開しました。

〈スポーツ志向〉

〈ボランティアマインド〉

障害者理解

NPO法人パラキャンから6名の車いすバスケットボールの選手をお招きし、競技の話、車いす生活の苦労や周りの支えの大切さなどの話をしていただきました。生徒や教員を交えての実体験もでき、パラリンピックや車いすバスケットボールへの興味・関心が深まっただけでなく、共生社会を生きるための障害者理解にもつながる貴重な機会となりました。

豊かな国際感覚

サモア独立国の大使館の方との交流を行いました。大使館の方からはサモア独立国の紹介をしていただき、児童は文化の違いに驚いていました。また、給食ではサパスイ（サモア風やきそば）、スアファイ（バナナとタピオカのデザート）などサモア独立国の特徴的な料理を食べました。この活動を通して、様々な文化を体験し、異文化理解を深めることができました。

タグラグビー大会

ラグビーワールドカップ2019、東京2020オリンピック競技大会の7人制ラグビーの開催に向け、青少年の健全育成を推進することや、ラグビー競技に対する地域社会の理解を醸成することを目的として開催しました。勝っても負けても大会を楽しむ子どもたちの姿にタグラグビーの人気を感じ取ることができました。

走り方教室（調布市ジュニア陸上競技体験教室）

小・中学生を対象として、陸上競技に精通した指導者による「走り方」の指導を行い、スポーツへの関心を高めるとともに、体力向上を図ることを目的に開催しました。正しいフォームでの走り方や速く走るための動き方、コツなどを学びました。指導後は、走り方の姿勢が改善され、以前より速く走れるようになり、子どもたちは喜んでいました。

創出するレガシー

- ボランティアマインドの更なる醸成
- 共生社会の形成に向けた障害者理解の促進
- 多様性を尊重する心や豊かな国際感覚の醸成
- スポーツへの関心や親しみの醸成

総括（レガシー）

市は、ラグビーワールドカップ 2019及び東京2020大会と世界最大級のスポーツイベントが市内で開催されることを契機に、まちづくりの多面的効果をもたらす有形・無形のレガシー創出のため、ソフト・ハード両面での取組を展開してきました。

ラグビーワールドカップ 2019では、東京スタジアムで開会式、開幕戦を含む8試合が行われるとともに、調布駅前広場周辺ではファンゾーンが開催され、国内外から多くの方々が調布市を訪れました。これらのことは、多くの市民の記憶に刻まれ、スポーツに対する関心や期待感が高まり、翌年に予定されていた東京2020大会に向けた機運の醸成につながりました。併せて、市内のバリアフリー化、 Wi-Fi 環境整備、サインの多言語化なども進んだことで、東京2020大会開催に向けたハード面の準備も整いました。

東京2020大会は、新型コロナウイルス感染拡大の影響により、史上初の1年延期となり、また、緊急事態宣言が発出される中、多くの会場において無観客開催となるなど、これまでに経験のない困難な状況下での開催となりました。そうした中で、すべてのアスリートが自らの目標に向かって果敢に挑戦する姿は、全市民、とりわけ次代を担う子どもたちに大きな感動、そして夢と希望を与えてくれたものと確信しています。さらには、調布市応援アスリートで、元調布市職員の山崎悠麻選手がパラリンピックのバドミントン女子ダブルス（車いす）において、金メダルを獲得したことは、市民にとって大きな喜びとなりました。

一方、大会に関連して計画した様々な取組は変更・縮小・中止にせざるを得ない状況もありましたが、大会の機運醸成やレガシー創出に向けて取組を進めてきました。とりわけ、大会を契機とした「パラリンピックレガシー」の創出を目指し、共生社会の重要性を市内外に発信する取組については、「パラハートちょうふ～つなげよう、ひろげよう、共に生きるまち」をキャッチフレーズに様々な取組を進めました。

こうした、大会を契機とした取組の推進に当たっては、多くの市民の参画をはじめ、他自治体、地域のプロスポーツチームや競技団体など多様な主体との連携・協働による「オール調布」で進めてきました。今後は、これまでに構築した様々なパートナーシップを市政の様々な分野で生かしていくとともに、ソフト・ハード両面にわたる取組を一過性のものとせず、大会のレガシーとして継承・発展させ、次代のまちづくりにつなげていきます。

各分野での取組

ラグビーワールドカップ 2019、東京2020大会と世界最大級の大会が市内で開催されることを契機に、大会の準備段階から開催後にわたり長期的・継続的に享受できる有形・無形のレガシーを創出するため、調布市アクション&レガシープランに掲げた5つのテーマに基づく取組を展開しました。大会に向けたソフト・ハード両面にわたる多面的な取組を、調布のまちづくりのレガシーとして継承・発展させ、市民の豊かな生活につなげていきます。

共生社会の充実

大会を契機とした「パラリンピックレガシー」の創出を目指し、共生社会の重要性を市内外に発信する取組として「パラハートちょうふ～つなげよう、ひろげよう、共に生きるまち」を独自のキャッチフレーズとして掲げ、ソフト・ハード両面から様々な取組を進め、障害者、高齢者、外国人など誰もが安心・快適に暮らせるユニバーサルデザインのまちづくりを推進しました。こうした取組を、次代のまちづくりへ継承し、共生社会の更なる充実に向けて発展させていきます。

パラハートちょうふ
つなげよう，ひろげよう，共に生きるまち

スタジアム通りの無電柱化

障害者スポーツ体験会

パラハートちょうふアートデザイン

参加機会の創出

各種イベントでの競技体験や各小・中学校でのオリンピック・パラリンピック教育、市独自のおもてなしボランティアなど、様々な形で、子どもたちをはじめとした多くの市民に、トップアスリートとの交流や、大会等への参加機会を創出してきました。

こうした中で、アスリートとの交流等を通して得た気づきや学びは、子どもたちをはじめ多くの市民にとってかけがえのないものです。こうした記憶としてレガシーとして次代に継承していくとともに、スポーツへの親しみや、国際交流、障害理解、ボランティアマインドの育成などの取組を継続・発展させていきます。

車いすバスケットボール選手との交流

多様な主体との連携

行政と市議会、市内関係団体が一丸となり、「オール調布」の視点に立った取組を進められるよう、「調布市2019-2020プロジェクト全体会議」を設置し、大会関連情報等の共有を図ってきました。また、自治体間の広域連携はもとより、地域のプロスポーツチームや競技団体などとも連携し、様々な取組を展開しました。こうした取組を通じて、多様な主体の参画を得るとともに、パートナーシップを構築・発展させました。今後は、このパートナーシップを市における各施策の推進に還元していきます。

2019-2020プロジェクト全体会議

東京都市町村ボッチャ大会

大会の記憶の継承

市は、ラグビーワールドカップ、オリンピック、パラリンピックという世界最大級の3つのスポーツイベントが行われた国内唯一の基礎自治体です。こうした大会のかけがえのない感動と記憶を次代にレガシーとして引き継いでいきます。

なお、東京2020大会において競技会場となった東京スタジアム、武蔵野の森総合スポーツプラザ、武蔵野の森公園を含むエリアについては、大会開催を象徴する場所として「武蔵野の森オリンピック・パラリンピックパーク※」と名付けられ、大会の感動と記憶を後世に永く伝えられることになります。

主な取組

- 東京2020大会の記憶を語り継ぐレガシー銘板の設置
- パラリンピックのレガシーとして大会マスコット像（ソメイティ）の存置
- ラグビーワールドカップのレガシーとして大会ロゴによるデザインマンホールや大会マスコット像（レンジー）の存置
- 大会の記念品や記録等を保存し、未来へ継承

東京2020パラリンピック公式マスコット「ソメイティ」

武蔵野の森オリンピック・パラリンピックパーク※

都立武蔵野の森公園

武蔵野の森総合スポーツプラザ

東京スタジアム

※2022年3月現在において、東京都は仮称として公表しています

TOKYO2020

調布市
CHOFU

【編集・発行】 調布市生活文化スポーツ部 オリンピック・パラリンピック担当
〒182-8511 東京都調布市小島町2丁目35番地1　TEL：042-481-7111（代表）
登録番号（刊行物番号）2021-178　2022年3月発行